



6 さまざまな店が並ぶ1960年頃の駅前商店街 7 1970年代には通勤や通学のほか旅行などで多くの利用者にでぎわいを見せた 8 1994年、開業100周年を迎えた新田駅 9 昨年6月、地域住民により開催された「新田駅舎127年間に感謝する集い」 10 「新田駅のある風景写真展」のポスター



1 1923年当時の駅とホーム。駅の前には蒸気機関車を待つ人たちが並ぶ 2 大正時代の駅員たち 3 集団就職のため旅立つ子と励ます母親 4 新田小児童の修学旅行にも電車が使われた 5 駅前スペースでは商店会が企画した盆踊り大会が開催された

Interview



新田あるものさがしの会
及川 昌義 理事長(70)

今までも、これからも、地域の宝として

新田駅は地域にとって宝であり、たくさんの思い出や歴史が詰まった場所です。

商店会を中心にさまざまなイベントが開かれていたほか、私が幼い頃は集団就職で関東方面に旅立つ人たちの姿もあり、人生の始発駅として思い出に残っている人たちも多いと思います。子どもを見送る母親や校歌を歌いながら送り出す在校生の姿もあったと聞いています。

「新田あるものさがしの会」では、地域住民が思い出を振り返る機会になれば、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターで「新田駅のある風景写真展」や旧駅舎解体後の8月には駅を懐古する展示会「新田駅舎の思い出」を開催しました。展示会では駅舎入口に使われていた特徴的なデザインの柱や駅名表示板、駅舎などの写真約40点を展示しました。また、新田駅舎の価値を再認識してもらうため「新田駅を考える会」を設立し、

地域の皆さんと情報を共有しています。

新駅舎は地域の特色を考えて作られており、地元の人たちからも「良いデザインだな」といった声が上がっています。旧駅舎はなくなりましたが、新田駅は、地域の人たちにとって大切な存在であることに変わりありません。これからも、定期的にこれまでの思い出を振り返られるようなイベントを考え、地域の宝として伝え続けていきます。



新田駅を考える会発足時の会議の様子

～新田駅の思い出～

今は昔に比べると利用者は減り、以前ほどのにぎわいはなくなりましたが、私たちが地域住民にとって思い出の場所であることは変わりません。新駅舎となったこれからも、地域にとって大切な存在であり続けてほしいと思います。



高橋 正人さん(74) 迫町新田駅前

また、夏には駅前のスペースを使わせてもらい、商店会が主体となって盆踊り大会を開催するなど、新田駅はいつも地域のにぎわいの中心にありました。私も商店会の一員としてお祭りの手伝いをさせてもらったり、忙しく過ごさせてもらったことが、今では良い思い出です。

遠藤 きくよさん(73) 迫町大形
売店から見た新田の風景



私が新田駅前商店街でお店を営んでいた1970年頃、新田駅の近くには大きな運送会社があり、牛や馬、農産物が出荷されるなど、この場所は近隣の地域にとって物流の起点となり、多くの人が訪れていました。